

持続可能な国際競技力向上プラン（令和7年3月改定版）のポイント

これまでプラン等に基づいて実施してきた取組は、近年のオリ・パラ大会での日本選手団の輝かしい結果に一定の役割を果たしてきた。

リオ
2016

平昌
2018

東京
2021

北京
2022

パリ
2024

ミラノ
2026

愛知・名古屋
アジア・
アジアパラ

ロス
2028

フランス
アルプス
2030

ブリスベン
2032

ユタ
2034

2016.10
「競技力強化のための
今後の支援方針」策定

2021.12
「持続可能な国際競技力
向上プラン」策定

2025.3
「持続可能な国際競技力
向上プラン」改定

アスリート・センタードの視点から、これまでの取組・これからの取組を再整理
スポーツ庁・JSC・JOC・JPSA・JSPOの役割分担と連携を通じ、より効果的・効率的な協働を実現
一体的な取組によりアスリートを支援組織間・活動拠点間でシームレスにサポート

地域との連携

- # 地域のコンソーシアムとHPSCとの連携による医・科学支援機能の向上(3.(1))
- # NTC競技別強化拠点の機能強化(3.(2))
- # 部活動改革を好機としたNFと地域との一体的な取組(1.(1))

選手強化活動の基盤の確立、医・科学等サポートの充実

【強化拠点】(場所で支える)

- # パラ競技の育成・強化の場の創出に向けた検討(1.(1))
- # HPSCにおける医・科学研究やアスリート支援の充実(2.(1))
- # JISSの機能強化(2.(1))

【指導者等】(人で支える)

- # コーチ等指導者やサポートスタッフの育成・充実(1.(2))
- # 大学や企業とHPSCとの連携(2.(1))
- # トータルコンディショニングの確立と実践(2.(1))

【国際競技大会】(大会で支える)

- # オリ・パラ競技会場・選手村・村外拠点の協働による「トライアングルサポート」(2.(1))

アスリートを守る

- # 女性アスリートが健康に競技を継続できる環境の整備(4.(1))
- # 誹謗中傷等から守ること等を通じたアスリートのウェルビーイング向上(4.(2))
- # NFのガバナンス確保・組織基盤強化(4.(3))
- # アンチ・ドーピング(1.(2), 4.(3))

根底にある考え方

身体機能・コンディショニングに関するリテラシーの向上

強化活動を通じた人類の潜在的身体能力の開拓

競技やオリ・パラの枠組みを超えた連携、強化活動(「クロストレーニング」等)

国際情報の収集・活用(2.(2))

- # NFの情報収集強化・ルールメイク等に関与できる体制の構築
- # JPCクラス分け情報・研究拠点の活用

テクノロジーの活用(2.(3))

- # データサイエンティスト・データエンジニア等との連携によるAI等テクノロジーの活用に向けた研究等の実施